

## 産業について

### 農業

- ・花良治みかん、たんかん、パッションフルーツ、メロンを手がける。
  - ・自分で作ったもの、それ以外でも在来みかん、出荷できなくなったマンゴー
- 上手に加工して出荷することも目指す
- (理由) フルーツ出荷がメイン。島の中には良い物がたくさんあり、それを多くの人に知ってもらいたいが、生のままだと鮮度が保てない・旬の時期にしか出荷できないといった問題がある。→加工も
- ・メインの農業ではどれだけ小さな面積の畑で家族を養っていきけるかを考えながら取り組む
- (理由) 人口減少により余る畑は増。この品種をこの面積で取り組めば生活できるというものが証明できたら、今後、IターンやUターンを考えている人にとってのモデルになる→人口増が期待出来る

### 農業

- ・元歯科衛生士で農業をしたことがない
- ・農作業は力仕事→男性に頼る
- ・自動操舵などのスマート農業を取り入れ作業を行う→女性もやりやすくなる
- ・子どもたちも農業を通して土に触れ何かを育てること、危険を回避することを学ぶことができる→子育てにいい環境と思う

### 黒糖製造業

- ・“喜界島をオーガニックにしよう”という志から発足
- ・「島産の黒糖は他よりもおいしい」と言われることがある→サンゴのめぐみ?
- ・島のために“みんなで1つのことをやろう”というよりは、それぞれの分野で頑張ることが、喜界島の未来にとって1番良いのではないかと思う



## ～スモールワーク (約5分) ～

### 近くの席の人たちと意見交換で出た意見など

- ・子どもが農業大学校で農業を学んでいるので、農業の先輩としてアドバイスを
- ・オーガニックの課題が何なのかという意見が出た。
- ・外に出荷されることの方が多いい?地産地消
- ・他の地域は酸性土壌が多く「骨粗鬆症に気をつけましょう」という呼びかけがなされるが、喜界島はアルカリ性でカルシウムの宝庫。石灰岩で構成されている場所は日本で唯一。そのためか喜界にある植物は奄美や沖縄にもあるが、分布は全然違う
- ・生産から販売までの知識が必要。1人(単独)では相当な労力を要していると思う  
→仮に、最適な手法が確立し、同様の手法(手段)で取り組む人がたくさん出てくると、シェアの食い合いが発生することもあり得る。そのためそういう面でも多様性が必要かと思う
- ・NPOを立ちあげ、子ども達に農業などの体験活動や農福連携に関する取り組みを実施し、在来の大根等を出荷している。農業などを取り入れた子どもの居場所作りを検討している

## 守っていくもの・残していくもの

- ・集落でシマ唄・八月踊りの保存活動を行う。シマ唄・八月踊りには豊作の喜び、一期一会の大切さ、生きていくことの厳しさ、集落自慢など先人たちの素晴らしい教えがあり、それを先輩から教わり、それを今は子どもたちに伝承している。それが課題だと思う
- ・普段からビーチクリーンなどを行う。今の時期はスギラビーチで2~3トン漂着ごみがある。ペットボトル類が多いが、先日“poison”と書かれているものがあった。海からのごみを減らすのは自分たちではどうしようもないが、素材が水溶性になるような技術ができればいいと思う
- ・ライブハウスを経営。日頃、ウリバマでコーヒーを飲んでくつろいでいるのがとても有意義な時間。こういう景色を子ども達に残していきたいと思う。音楽は心を豊かにしてくれる。今後、小学生~一般までの大人数で1曲歌うことをイベント内で考えている。喜界島の「喜」は鼓を打ち歌い神に捧げるとい語源がある。それを自分たちで表現できたらと思う

## ～スモールワーク(約5分)～

### 近くの席の人たちと意見交換で出た意見など

- ・高校までしかないから島を離れその後、帰って来るか否か
- ・農薬や化学肥料を使わないようにするのが理想かもしれないが、現実的に厳しいこともあると思う。なので、一気に変えると無理が出てくるため、徐々に変えていけば自然も守ることができると思う
- ・都会には見られないもの(お祭りや各集落に土俵があることなど)を観光客は求めている。人口を増やすのは厳しいかもしれないが、交流人口が増えれば喜界島の未来に繋がると思う
- ・八月踊りなど若い人の参加が少ないところもあるが、子どもも参加する集落もある。学校の統廃合の影響もある?
- ・空港が小さく「駅みたい」とSNSで取り上げられているのを見かけるため、そういうのは残したい
- ・島の特産品を使った“映える”ものがあれば観光客が増えるのではないかな?
- ・普段の遊ぶ場所が限られている。新たな遊びの場がほしい
- ・喜界島サンゴ礁科学研究所  
→自分たちには当たり前の光景が、専門家からしたら珍しいものがある。それを聞くと嬉しくなり、子どもにも伝えることで誇りにつながる
- ・移住者や外からの意見が地元民では思い付かないようなものもある。一緒になって頑張っていけたらもっと良くなるのではないかな?
- ・島の情報を求めている人が島外には多い(移住して2年半ほど、島の情報を発信しメディアに100本ほど取り上げられた)。島民が島のことをもっと好きになって自慢話をするようなことができれば魅力が発信できると思う
- ・喜界島全体でのブランディング化
- ・橘を育てている。香りが豊かで抗がん作用がある。苗をお求めの人がいたら供給したい

